

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年6月末現在）

今月の重点活動

■水稲 「AgriLook」（アグリルック）の運用を開始！

「アグリルック」とは、品種名や田植え日から水田ごとに防除や刈取りなどの作業適期を予測することができ、栽培経験の浅い農業者でも適期作業が可能となるなど水稲栽培を支援するWEBサービスである。

農業普及課では、この「アグリルック」を農業者が使用しやすいよう、各関係機関・団体と会議を重ね改良、6月から飛騨管内の3市1村で運用を開始した。

このため、各地で開催された水稲青空教室では、本サービスを活用した適期作業による米の品質向上対策を指導した。

今後、「アグリルック」を活用した適期作業を推進することで飛騨の米の一層の品質向上が期待される。



【青空教室の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 3Sシステムで栽培された飛騨トマトが出荷開始！目揃え会と栽培研修会開催

6月2日、3Sシステムで栽培された飛騨トマトの出荷開始に伴い、生産者、JA、県関係者が出席し、目揃え会と栽培研修会が開催された。

3Sシステムとは、土壌病害回避や単収向上を目的に県中山間農業研究所で開発された夏秋トマト専用の固形培地耕（養液栽培）の栽培技術であり、2月下旬～3月頃に定植を行うことで、慣行栽培より早い5月下旬から出荷が始まる。飛騨農林事務所管内では、現在11名の生産者が3Sシステムに取り組んでおり、目揃え会当日は綿密に出荷基準の確認が行われた。

また、農業普及課からは、3Sシステムで重要となる給液管理の注意点や地域で問題となっている病害虫の対策等について説明した。6月下旬頃から慣行栽培においても出荷が始まる見込みであり、今後も、巡回指導や研修会を通して、夏秋トマトの生産性向上を支援していく。



【3Sシステムによる栽培の様子】



【形や色等の出荷基準を確認】

■メロン 飛騨メロン研究会現地研修会

飛騨地域では昭和53年ころから、夏季冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気象条件を活かし、高品質なメロンが栽培されている。

6月19日、飛騨メロン研究会では、メロンの栽培技術向上や栽培状況等の周知を行うため現地研修会を開催した。研修会には生産者、JA、市場関係者、種苗メーカーのブリーダー等20名が出席し、栽培の現状や今後の栽培方法等について、積極的な意見交換が行われた。農業普及課からは、土壌消毒の方法等について情報提供を行った。

農業普及課では、引き続き需要期のお盆に向け、目揃え会や共進会で、高品質な飛騨メロンの出荷に向け支援していく。



【研修会の様子】

■りんご 摘果講習会を開催

飛騨地域では、夏期冷涼で、気温の日較差が大きいなど恵まれた気象条件を活かし、高品質で食味の良いりんごが栽培されている。りんごでは、果実の肥大促進と品質向上、翌年の隔年結果（1年おきに豊作と不作を繰り返す現象）の防止を目的に、不要な果実を間引く摘果作業が必要である。そのため、6月12日、高山市果実組合のりんご生産者ほ場にて、摘果講習会が開催された。

当日は、農業普及課から摘果するべき果実や適正な着果量について講習するとともに、今年度の生育状況や病害虫の発生状況について説明した。

また、講習会後はほ場を見て回り、摘果方法などについて組合員同士で意見交換が行われた。生産者からは、摘果方法だけでなく、病害虫の発生状況についても関心が高く、活発な意見交換が行われた。

農業普及課では、今後も、栽培技術の支援や病害虫情報の提供を通じて、高品質で食味の良いりんご生産を支援していく。



【講習会の様子】